



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス TQSの改革について
- 2-私の提言 そろそろ将来の準備を考えませんか？
- 2-クオリティークルボ SDGsと総合的品質管理
- 3-クオリティークルボ 品質管理のタブーについて/行案内/研究助成募集要項/論文募集
- 4-第51年度事業計画/第51年度役員体制/第51年度役員役割分担表/2021年9月の入会者紹介

TQSの改革について

品質誌あり方検討WG 主査 伊藤 誠

すでに様々な機会にご案内を差し上げていますが、本会が運営する英文論文誌 Total Quality Science (TQS) の改革を進めています。学会を支える人材の供給源として、大学や研究機関が重要な役割を担っています。厳しい社会状況のなか、大学・研究機関が生き残っていくためには、また、その中で研究者として生き残っていくためには、国際的な競争を勝ち抜く必要があります。学会が提供する論文誌も、当然国際的に価値を認められるものへと変わっていかねばなりません。

そこで、TQSの国際化、オープン化を目指し、活動を進めてきました。従来のTQSは、英文、かつJ-Stageでのオープンアクセスをすでに実現していますが、投稿できる資格を有しているのはJSQCの会員のみとなっていて、その意味でのオープン化ができていませんでした。今回、国内の非会員にも投稿を認めるだけでなく、全世界からの投稿を受け付けるようにルールやシステムの改革を進めています。この改革に伴う調整が想定よりも多く、当初予定していたスケジュールより遅れ気味となっています。遅れが発生していることについては大変申し訳なく思っているところですが、重要な課題が残っているため慎重に作業を進めたいと考えています。とくに、EUのGeneral Data Protection Regulation (GDPR)

をはじめとして、世界各国で個人情報保護に関するルールが厳しくなっていることから、世界で通用する個人情報保護の体制を整備することも合わせて進めています。

論文誌の国際化という意味では、形を整えるだけでなく、実質的に、世界中の研究者が「この論文誌に投稿したい」と思えるような場にしておくことが重要です。このためには、海外の研究者に広報活動をしていくのはもちろんですがほかにも考えるべきことはあります。その一つは、論文誌が扱う主たる分野です。この論文誌では、日本が大事にしているTQM (Total Quality Management) に焦点を当てた編集をしていけたらと思っています。「TQMを議論するならTQSだ」と世界中の品質管理の研究者に認識してもらえるような論文を集めていくことが重要です。そのようにトピックを絞りすぎるのはよくないという考え方ももちろんあります。このあたりのことについては継続的な議論が必要ですが、たとえ見かけ上投稿数が少なくても「ここにしかない」価値が認められれば、存在感を示すことは可能です。こうした意味での存在感を示していくようにするためには、日本が誇るTQMの王道に関する研究成果をぜひ積極的に本誌へ投稿いただきたいと思っておりますので、どうぞご協力よろしくお

願います。もちろん、論文誌としての価値を維持するためには採択率も妥協はしないようにと考えてもいます。

論文誌の国際化は、投稿者の国際化だけでなく、編集体制も国際化しなければなりません。国際的に著名な研究者に編集にかかわっていただくべく協力の依頼をし、多くの先生方から了解が得られています。

他方、TQSの改革に合わせて、論文で使われているデータを「出版」できる仕組みも導入することを検討しています。これは、JSTが提供しているサービス、J-Stage DATAを活用するものです。J-Stage DATAでは、J-Stageに掲載された文献について、著者が希望すれば、データにDOIを付し、当該論文と相互にリンクされた形で公表することができます。これを利用することによって、論文の主張の根拠をより明確に示すことができるようになりますし、他の研究でそのデータを再利用できるようになり、さらなる研究の発展につながるなどが期待されます。J-Stage DATAで公表されたデータのある論文はプレゼンスが高まる傾向があるようです。

新しいTQSに生まれ変わるまでにもうしばらくの時間が必要となりますが、準備ができ次第アナウンスをさせていただきます。その際は、ぜひTQSへの活発なご投稿をお願いできれば幸いです。

● 私の提言 ●

そろそろ将来の準備を考えませんか？

電気通信大学 山本 渉



現在の学習指導要領の下では、QC7つ道具のうち、散布図を除く手法には、小学校で触れ始めるようになっていきます。層別にも、小学校から慣れ始め、中学校で2群の比較ができるようになります。これらの内容は、統計検定では4級、QC検定でも4級の出題範囲に含まれます。

高校生では、正規母集団の区間推定や仮説検定まで触れます。選択科目ですが、期待値の考え方にも触れます。これはQC検定でも統計検定でも3級の

範囲に入ります。

新しい学習指導要領の下では、教科情報の中の問題解決の取り組みに、QC7つ道具や新QC7つ道具を活用する取り組みもあります。高校生がQC検定の3級の内容に触れる可能性も増えることが期待されます。

もちろん各学年なり、各学校なりの教育方法の中で関わるでしょうし、すぐに品質管理の実践に結びつく訳ではないかもしれません。それでも大学における確率論や統計学の講義や、社会における品質管理教育の受講者の中の、入門レベルの知識は持ち合わせる者の割合が、上がっていくことも十分に期待できます。何しろ全教科におい

て、深い学び、対話的な学び、主体的な学びを通じて、思考力、判断力、実践力を磨いて育ってくる世代です。

令和2年度に高校に入学する生徒は、令和4年度末に記述統計や推測統計、またデータ分析を含む数学と情報の大学入試センター試験を受験する。そして早ければ令和5年度から7年度に大学で、統計学や品質管理に関する科目を履修し、令和9年度には大学を卒業し新入社員となります。

まずは教育制度の変更に、興味を持っていただくことをお勧めします。これだけ分かりやすく、どう変わるかが、その意図や内容も含めて、品質管理に近いことは、これまでなかったように思います。そしてこの世代の人材にどのような品質管理教育、また統計教育を行うべきか、そしてそろそろ、企画段階の検討も始めても良い頃な気がしてきています。

第124回
クオリティーク
ルポSDGsと
総合的品質管理

2021年8月18日(水)、第124回クオリティーク「SDGsと総合的品質管理」がオンラインで開催された。

東京都市大学 兼子先生からの開会挨拶に続いて、株式会社テクノファ会長平林良人氏より講演が進んだ。始めに、現状の地球の抱える最重要課題「地球温暖化」についての説明、そして2015年にSDGsが発行されるまでの歴史を、何が問題？何が課題？との投げかけながら解説された。

次に、SDGs目標をどのように解決／達成させるかは総合的品質管理(TQM)そのものであることを説明した上で、国連が検討中の「SDGインパクト規格」の4要素(戦略、マネジメントアプローチ、透明性、ガバナンス)を中心として説明された。さらに、SDGsを組織活動とするためどのように取り組むかを、その4要素毎に内容を解説しながら、JSQC規格(方針管

理／日常管理)、TQMの原則(目的、手段、組織運営)、ISO附属書SLとを関連付けながら解説された。

最後の全体討論は、兼子先生の司会により進められた。その中で「国連の規格へ取り組みを知ることができて良かった」、「お客さまのこのみを考えるのでは今後は不十分であり、国を超えての課題の必要性を述べているのではないか」、「日本の行政機関がもっと噛み込む必要があるのでは」といった意見も出されたが、「国連のSDGs、SDGインパクトと、ISO規格と重なる面があるように思えるが?」、「ISOの述べていることに対し、国連の対応に何か裏があるのではないか」などの質問／疑問も出された。氏から「大学でもSDGsワークショップを開催していること」、「企業も、国際的に不利になる可能性もあり、過去の失敗を繰り返さないことが肝要である」と述べられていた。

終了時の評価では、十分あるいはほとんど理解できたとあり、受講者にとってSDGsへの取り組みの必要性、国連の動き、プロセス保証に関する体系的理解などを深める機会であったと纏めたい。

寺部 哲央(元・日産自動車株)

第125回 クオリティーク ルポ

品質管理の タブーについて

2021年9月22日(水)に第125回クオリティークが開催され、オンラインで31名が参加した。「品質管理のタブーについて」をテーマに(株)遠藤メソッド代表取締役の遠藤 友貴哉氏に「行為保証2.0」という考え方に触れていただいた。

「行為保証2.0」とは、製造品質における再発不良や慢性不良と言った、製品・サービスを提供する現場で発生している不良・クレームに対して、問題発生メカニズムの把握と分析を行う新たなプロセス管理思考のツールである。従来の「出来栄え」基準は結果であり、行為保証2.0の基準はプロセス保証にある。端的に言えば“目的意識を持った動作の保証”である。

では“目的意識を持った動作の保証”とは何だろうか？遠藤氏はビス浮き防止やコーヒー缶を置く動作といった、我々が分かりやすい事例で解説いただいた。

目的意識＝プロセスの注視と小生は理解した。工程・作業において、絶対してはいけない事・絶対しなくて

はならない、また、こうすれば良くなることの表現に繋がるノウハウである。このノウハウの多くは暗黙知であり、これを形式知として変換させるには、教育だけでなく、習慣を変える訓練が必要である。これは組織にとって不可欠な技術の伝承のポイントであるが、作り手が満足する作業要領書と読み手がわかりやすい製造技術標準は異なることが意外に盲点である。手順とノウハウを分けて管理する有効性は即効性があり、実益性が高いアプローチではないだろうか。遠藤氏が挙げたキーワードの一つとして、ヒューマンエラー・ポカミスが発生する3つの原形がある。「①見えない(非注意における盲目状態)」、「②見てない(要素作業の行為保証が不徹底)」、「③見られない(単位作業の行為保証が不徹底)」の再発不具合原因のパターンである。小生も③に該当する、作業中に話し掛けられ、作業が中断し、繰り返し作業が行えず、それが起因してミスや抜け漏れが生じることを良く経験する。一見当たり前のことのように思えるが、意外な盲点に理論的に着目した「行為保証2.0」を学ばれることで、新たな気づきを得られるのではないだろうか。

西村 桂 (一助) 日本規格協会)

行事案内

●第127回クオリティーク (東日本)

テーマ：歩車共有空間を走行する自動
運転の価値と安全の共創

ゲスト：伊藤 誠 氏 (筑波大学)

日時：2021年12月21日(火)18:00~20:15

会場：Zoom会議室 (オンライン)

詳細・申込：https://jsqc.org/127th_qtalk/

●第3回特別座談会

TQM推進の勘所—先人の知恵を借りる—

日時：2022年1月28日(金)13:00~17:40

会場：Zoom会議室 (オンライン)

登壇者：

北廣 和雄 氏

(北廣技術士事務所/元 積水化学工業)

永原 賢造 氏

(プロセスマネジメントテクノ/元 リコー)

新家 達弥 氏

(元 日立製作所)

高木 美作恵 氏

(日本科学技術連盟/元 シャープ)

コーディネータ：

光藤 義郎 氏

(日科技連/元 文化学園・元 JUKI)

詳細・申込：https://jsqc.org/3nd_zadankai/

●第431回事業所見学会 (関西)

テーマ：パナソニックセンター大阪に
おける業務改善活動の取組み

日時：2022年1月19日(水)14:20~17:10

見学先：パナソニックセンター大阪

定員：18名

詳細・申込：https://jsqc.org/431th_kengakukai/

事務局

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：TEL：050-1742-6188

FAX：052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

事務局からのお知らせ

第51年度研究助成募集要項

趣 旨：21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

助成金額：1件5万円 5件以内

期 間：1年間 (第51年度：2021年10月~2022年9月)

募集期間：2021年12月~2022年3月末日

詳 細：<https://jsqc.org/category/news/jimukyoku/>

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

一般社団法人 日本品質管理学会 第51年度事業計画

会 合 / 月	2021 10月	11月	12月	2022 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会		第51回 13日(土) オンライン												第52回 中部地区
研究発表会	本部・中部・ 関西							第128回 28日(土) 本部			第129回 中部	第130回 関西		
講演会	本部・中部・ 関西・西日本			第3回 特別座談会 28日(金) 本部										
講習会	標準委員会			方針管理の 指針		日常管理の 指針		品質管理教育 の指針		プロセス保証 の指針		小集団改善活 動の指針		新製品/ 新サービス 開発官管理 の指針
シンポジウム	本部・東日本・ 中部・関西		第172回 10日(金) オンライン			第173回 東日本				第174回 中部 第175回 関西				
クオリティトーク	東日本	第126回 6日(火) 二橋氏	第127回 21日(火) 伊藤氏		第128回		第129回		第130回		第131回			
事業所見学会	本部・中部・ 関西・西日本			第431回 19日(水) 関西		第430回 中部		第429回 関西	第424回 中部					
QCサロン(関西)	12日(火) オンライン				10日(木)		19日(火)		7日(火)		23日(火)		11日(火)	
その他の行事	ANQ2021 シンガポール 20-21 オンライン							第21回安心 ・安全WS 14日(土)					ANQ2022 中国	
理事会	470回 26日(火)	471回 13日(土)	472回 15日(水)	473回 20日(木)		474回 23日(水)		475回 23日(月)		476回 21日(木)		477回 14日(水)		○
庶務委員会	20日(水)		9日(木)	13日(木)		11日(金)		12日(木)		14日(木)		8日(木)		○
学術委員会 論文誌編集	4日(月)	1日(月)	10日(金)	11日(火)	15日(火)	22日(火)	18日(月)	○	○	○		○	○	○

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

第51年度役員体制決まる

会 長	永田 靖	早稲田大学
副会長	若林 宏之	デンソー
”	鈴木 知道	東京理科大学
理 事	安随 正巳	日本科学技術連盟
”	飯塚 裕保	積水化学工業
”	奥 展威	日本規格協会ソリューションズ
”	川村 大伸	名古屋工業大学
”	熊井 秀俊	元リコー
”	今野 勤	神戸学院大学
”	佐野 雅隆	拓殖大学
”	澤田 昌志	アイシン
”	鈴木 直人	元日野自動車
”	鈴木 秀男	慶應義塾大学
”	高橋 勝彦	広島大学
”	永井 義満	明治大学
”	中村 浩一	デンソー
”	西 敏明	岡山商科大学
”	仁科 健	愛知工業大学
”	平林 良人	テクノファ
”	古谷 健夫	クオリティ・クリエイション
”	森田 浩	大阪大学
”	安井 清一	東京理科大学
”	山本 渉	電気通信大学
”	綿民 誠	ジェイテクト
”	渡辺 喜道	山梨大学
監 事	金子 雅明	東海大学
”	斉藤 忠	岡谷電機産業
”	新倉 健一	前田建設工業
顧 問	大久保尚武	積水化学工業
”	小原 好一	前田建設工業
”	二橋 岩雄	元トヨタ自動車
”	棟近 雅彦	早稲田大学

第51年度役員役割分担表

総合企画	◎永田 若林 鈴木(知)
品質管理推進功労賞	◎永田 若林 鈴木(知)
品質誌あり方検討WG	◎[伊藤] 鈴木(秀) 森田 永田 他
JAQC設立準備	◎古谷 飯塚(裕) 鈴木(直)
庶務	◎佐野 古谷 西
庶務、選挙管理	◎佐野
会員サービス	◎西 澤田
規定	◎奥
会計	◎安随
活動	◎永田 若林
事業・広報	◎熊井 ○齊藤
研究開発	◎鈴木(秀) 永井
学会誌編集	◎安井 [伊藤]
JSQC選書特別	◎[飯塚(悦)]
東日本支部	◎鈴木(知)
中部支部	◎仁科 澤田 川村 中村
関西支部	◎綿民 今野
西日本支部	◎高橋 西
管理技術部会	◎金子 平林 [福丸]
ソフトウェア部会	◎[兼子]
医療の質・安全部会	◎棟近
サービスエクセレンス部会/ 生産革新部会	◎[伊藤] ◎安井
標準	◎平林 山本
学術	◎森田
論文誌編集	◎森田 ○渡辺
Total Quality Science 編集	◎渡辺
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎鈴木(知) 森田
品質技術賞	◎若林 安井
研究助成特別	◎川村
学会間交流	◎鈴木(知) 永田 鈴木(秀)
FMES・横幹	◎永井 ・◎[伊藤]
国際(ANQ)	◎鈴木(知) 永田 [山田]
安全・安心社会技術連携特別	◎ [伊藤] [中條]
TQE特別委員会	◎ [鈴木(和)] 古谷

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長 []役員以外の方

2021年9月の 入会者紹介

2021年9月14日の理事会において、下記の通り正会員8名、公共会員1社1口、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員8名)

○竹延 幸雄(竹延) ○平田 雄一・中間 圭太郎(デンソー) ○藤川 智暁(トーマツ) ○川畑 高夫(キオクシア) ○野上 真裕(TMJ) ○横尾 尚志 ○土井 正博(堀場製作所)

(公共会員1社1口)

○早稲田大学図書館理工学図書館

(賛助会員1社1口) ○デンソー九州

名誉会員：20名

正会員：1701名

準会員：89名

職域会員：48名

賛助会員：150社222口

賛助職域会員：12名

公共会員：17口